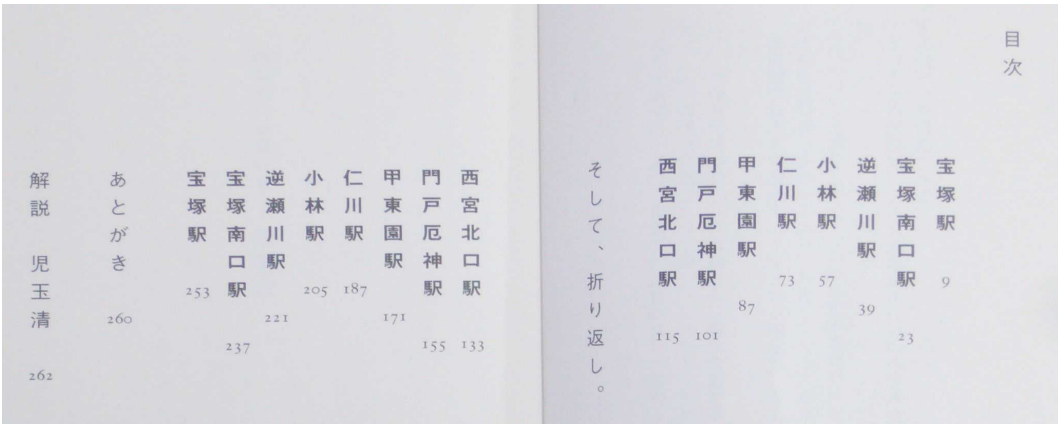
鉄チャン　知ったかぶり　阪急電車

(文庫本) 阪急電車

『阪急電車』と言う本が発行されました
あたかも、阪急電鉄創立１００周年に当り、これの記念出版を兼ねて　さぞかし、小林一三氏が創設した『宝塚線』からはじまる物語かと思った。
ところがどっこい！有名でも、個性的でもない『今津北線』を舞台にした、とっても面白い『今津北線』に乗り合わせた人たちの世相の話題？人生ドラマ？をオムニバス風に各駅間毎にひとつづの話題を描いているという替わった作品です。
この本を読むと、車内に乗り合わせた人の話し声に聞き耳をたてたくなったり、青春時代の記憶をよみがえらせてくれたり、孫をつれて歩いたことを思い出させてくれたり、いつもは通過するだけの駅にチョット降りてみたくなるというようなユニークな作品です。
替わっているところは、これの『目次』が全て宝塚～西宮北口間の駅名になっていて、これを折り返し乗車して物語が終わるようになっています。
また、巻末の『あとがき』のさらに後に『解説』があり、これを児玉　清(俳優)が延々と4～5ページにわたって書いているのも異色でしょう。
来年には、このヘンテコな物語が映画化されますと、文庫本の『帯』に書いてあります。
電車の車内が舞台の映画はどんなんになるのでしょう？興味がわきます
監督は、関テレのテレビ監督『三宅喜重』氏らしい。(門戸厄神在住？)